



グリーンポトスニュース

72号：2003年8月

今年の夏は、梅雨が長く、なんだかはっきりしません。なんだか体調のすぐれない日をごしている方も多いのでは、そこで、今月の話題は『じんましん』です。

じんましん

じんましんと言えば、体中に発疹が出て、かゆくて耐えがたいものです。じんましんは、一種のアレルギー反応で、ある物質(アレルゲン)に対する拒否反応です。アレルゲンは人によって違います。有名なものとしてサバなどの青魚やソバ、あるいは漆(うるし)などがあります。医薬品にも時に存在し、ピリン系などはよく聞く話ではないでしょうか。

古くから、皮膚は内臓の鏡であると言われてきました。東洋医学におけるハリ、灸は、この理論に基づいて一部の治療が行われております。西洋医学でも、いわゆる放散痛と言われるもので、心臓の狭心発作時、左肩に痛みが走ることや、虫垂炎の時に心窩部が痛くなったりするのがそうです。

これらの理論とは少し違うのですが、じんましんも、体調に何らかの変化があるとよく起こります。春先から夏にかけては、比較的じんましんが出やすい季節です。それは、季節の変化に身体が適応できずに、体調を崩しやすいためです。普段と同じ物を食べても、体調が優れないと、じんましんが出るのです。

じんましんは食物だけでなく、触れることによって起こることがあります。接触性皮膚炎と呼ばれるもので、漆(うるし)や草木によるものがそれです。夏は半袖半ズボンと、皮膚の露出が多くなるため、また、山や海に行くことも多いため、接触性皮膚炎の機会も増えるのです。

通常のじんましんは、長くても1週間ほどで、治癒しますが、1ヶ月以上もじんましんが治らないことがあります。これは、慢性じんましんと呼ばれ、最近の研究では、肝臓や腎臓、胃潰瘍などの関連があることが分かってきました。ですから、じんましんだからといって馬鹿にせず、大きな病気が隠されている可能性もありますので、じんましんが出たならば、体調管理をするとともに、きちんと受診されることをお勧めします。

